

○事業所名	児童デイあつたまある山		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日		～ 令和 7 年 2 月 28 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日		～ 令和 7 年 2 月 28 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 14 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の中に皆でおこなう集団活動を多くしている。 年に数回イベントを企画して、身体を動かす活動や文化活動など、社会性・協調性を高める活動をおこなっている。	土曜日や長期休暇には、大きな公園に出かけて身体を動かす活動をおこない、事業所以外の場所での社会的な行動についての理解を深める療育を行なっている。またスポーツゲームの大会を開催して楽しんでいる。	公園等に來ている人たちとの交流も考えていきたい。 自主イベントで児童のスキルアップに関わるものを取り入れたい(防災・防犯に関することなど)。
2	事業所の周囲のスペース(建物外構や庭、駐車場)が広く、イベント等に活用できる。	庭で植物を育てたり、夏はプール遊びを行なったりと、庭を利用した活動を多くおこなっている。土に触れたり、道具の扱い方を覚えたり、普段触れることのない経験ができています。	庭のある一軒家という療育環境のため、第二の故郷(ホーム)となるような思い出に残る活動をもっとおこなってきたい。
3	日常生活スキルの向上を重視している。	掃除、庭仕事、料理、身辺整容など、自分の身近なことでできることを増やすようにしている。 安全に楽しくおこなうために、児童自らがどうしたらいいか考え、職員と一緒に計画を立てた上でおこなっている。	児童各自が、自分でやりたいことをプランニングできるように支援していきたい。(何がやりたいか?何が必要か?どうしたらできるか?などを考えて解決していく力を育みたい)

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	周辺の住民や関係機関など地域の方々と触れ合うことができていない。 保護者同士が知り合ったり交流する場が設けられていない。	以前は近隣の保育園・幼稚園と交流があったり、保護者の茶話会を開催していたが、コロナウイルスの流行以降、感染症に関する危機意識が高くなり、交流する計画が立てにくくなってしまった。	感染症には十分に留意するルールを設けて、危険のない範囲で交流する活動を行なっていきたい。
2	危険な箇所について対策の検討を重ねているが、予期せぬ事故について、もっと考えていかなければならない。	自立度が高い児童が多く、つい見過ごしがちになってしまうところもあるので、安全だと信用せずに疑って再確認することが必要である。	段差、滑りやすい場所、指を挟みやすい場所、どこに物を置くと危険か、児童だけで触ってはいけない物など、細かく皆で検討して安全な環境を作っていきたい。
3	利用者数が定員に近くなっており、より一層の安全確保と療育の充実を目指さなければならない。	利用者数が多いことにより、職員数も多くなり、事業所内が慌ただしい状態になってしまうことがある。	庭や複数の部屋をうまく利用して、児童が閉塞感を感じないような活動とする。個々の部屋と庭に職員を配置するにあたっては事前に打ち合わせをしてどの時間に誰がどこに居るかしっかりと決め、死角を無くしていく。